

## 生きる

## 宗教の普遍性

晴佐久 昌英

①

「あなたは必ず救われる」  
「あなたはもうすでに救われている」

すべての人に向かってそのように宣言する宗教こそが、いま、この地球上に求められているのではないだろうか。そのように信ずる宗教同士であれば、心から尊敬し合い、世界平和のために協力し合えるのではないか。

多くの宗教が、これこそが正しい教えだ、これ信じなければ救われないと、自らの絶対性を主張する。

しかし、この世に現実には多くの宗教があり、人生をかけて信じている人がいる以上、自分だけが正しいと言い張る原理主義や教条主義が人類を救うとは到底思えない。

今求められているのは、既成宗教が、いっそう普遍主義的なことばと振る舞いを鍛えあつて、すべての人を救う道を共に磨いていくことだ。

この危機の時代にあつて、人類は間違ひなくそのような道を求めているし、グローバル化が進む今後の世界では、そのような道を行く宗教が主流になっていくだろう。

ぜ、より良い関係を求めて忍耐強く対話を重ねないのか。だれだって夢見ているはずだ。宗教が互いに尊敬しあい協力しあつて、苦しんでいる人に具体的な救いの喜びをもたらす、すべての人を救う究極の教を定める日を。

その夢はいつの日か必ず実現するだろう。それが人類史

## すべての人を救う宗教

## 共感、共生する道へ

の必然だからだ。そのような夢のために働く宗教家も、すでに現れている。もとよりそれこそがイエスの願いであつたし、何度失敗しながらも、その夢に向かって二千年歩み続けてきたのが、真実のキリスト教なのである。

イエスは、その方法として非常に単純な道を示した。

「隣人を愛し、敵を愛せ」

だれかを愛する喜び、だれかに愛される安らぎ。救ひ合い、和解する感動。この世にそれを勝るものはないし、それを否定する宗教などありえない。ならば、まずは敵味方を超えて愛し合うという実践において、共感し、共生しようではないか。

特に最も困窮している人、

最も排除されている人に優先的に関わって惜しみない援助をし、精神的に苦しんでいる人、生きる意味を見失っている人によりそつて普遍的な救いに導くことは、あらゆる宗教を結ぶ最も確かな方法であると思われる。

日本では特定の宗教を持たない人の割合が増えている。

底には、普遍性あふれる霊性がしなやかに流れているし、だれも排除せず、互いにもてなし合うような教えならば喜んで受け入れる、おおらかな国であることは、みんな直感しているはずだ。

そうでなければ、お正月に神社に初詣に出かけ、結婚式は教会で挙げ、葬式を仏式で出すことなど、ありえない。この世で真の普遍主義が開くならば、それはまずはこの国においてほかにないといえるのではないだろうか。

安易な宗教多元論でも、単なる宗教協議会でもない。すべての人は救われるとい

う普遍主義を学び合い、愛の業と救いの宣言で一致しながら信頼関係を深めていく実践的な「聖なる道」である。

神社にお参りし、お寺で手を合わせ、教会で神に祈る。それが大きな目で見れば実はひとつのことであり、自然界

に宿るカミへの敬意であり、万人を救う弥陀の本願であり、神の愛を実現するキリストの道だといえるような超越的教義を見いだし、実践することこそは、この国で宗教を名乗るものの使命である。

このような普遍性は、もはや相対的な「宗教」を超越した「真理」と呼んでもいいと思う。そのような真理で結ばれるなら、多様な宗教があたかもひとつの「普遍教」のように機能して人類を救うことも夢ではないと思う。

「カトリック」、すなわち「普遍的」という名を冠した教会の司祭として、さらにはそのような夢の普遍教の信徒として、神仏ご自身の愛のことばを贈りたい。

「わたしはあなたを、愛している。すべての人を、必ず救う。安心して、あなたのまことの生みの親である、わたしの親心を信じてほしい」

(はれさく・まさひで「カトリック多摩教会主任司祭」)